

# 手術室の看護記録に対する意識

手術部

○ 清水 愛里 本久 美佐 上総 実紀 若狭 郁子

## I. はじめに

看護記録とは、「看護婦が情報収集により個々の患者の把握を行い、情報の分析・統合から看護上の問題を抽出し、さらに看護計画の立案・実施・評価という一連の看護活動過程を記録するものである」<sup>1)</sup>と山田は言っている。

手術室看護記録とは、術前・術中の情報から患者個人の看護上の問題を抽出し、安全に対してどのように配慮し看護援助を行ったかを看護過程に基づき的確に記録し、継続看護に活用できるものでなければならない。しかし当手術室の看護記録は、手術の進行状況や患者の一般状態などを経時的に記録した内容が主であり、看護内容が不明瞭である。また、術前訪問により患者個人の情報を得ているものの、個別性をふまえた記録にはなっていない。継続看護という点から見ても、現在の手術室看護記録の内容が病棟でどのように活用されているのかも明らかではない。

そこで今回、手術室看護婦と病棟看護婦が手術室看護記録に対してどのような意識を持っているのか知ることができたのでここに報告する。

## II. 研究方法

### 1. 対象者：研究の主旨を説明し承諾の得られた看護婦 10 名

内訳は、手術室勤務経験がなく夜勤のリーダーを行っている病棟看護婦 5 名、および病棟勤務経験がなく日勤のリーダーを行っている手術室看護婦 5 名。

### 2. 調査期間：平成 12 年 8 月 7 日～平成 12 年 9 月 4 日

### 3. 調査方法：面接による聞き取り調査

- 1) インタビューガイドを作成し、それに基づいてプレテストを行い、一部修正後研究者 2 名で面接調査を行った。
- 2) 1 回の面接時間は 30～40 分とし、面接内容は対象者の同意を得て録音を行った。
- 3) 面接調査で得られた内容を K J 法で分類した。

## III. 結果

表 1 病棟看護婦の意識

手術室の看護記録に対する意識は、病棟看護婦では 4 つのカテゴリー、手術室看護婦では 5 つのカテゴリーに分類することができた。(表 1・2)

尚、結果における経過記録とは手術看護記録用紙裏面を指し、手術の進行状況や患者の一般状態を経時的に記録しているものを言う。

### 1. 病棟看護婦 (表 1)

<手術室看護記録に対する捉え方>では、「書いた事がないのでわからない」「看護診断を取り入れた記録は想像できない」「手術室看護記録について看護婦間で話す事はない」「手術室看護記録に対して思う事はない」「疑問に思うことがあっても特に考えた事はない」「手術室看護記録について考えた事がない」などの意見であ

手術室看護記録に対する捉え方	<ul style="list-style-type: none"><li>・書いたことがないのでわからない</li><li>・看護診断を取り入れた記録は想像できない</li><li>・手術室看護記録について看護婦間で話すことはない</li><li>・手術室看護記録に対して思うことはない</li><li>・疑問に思うことがあっても特に考えたことはない</li><li>・手術室看護記録について考えたことがない</li></ul>
手術患者記録の活用	<ul style="list-style-type: none"><li>・手術内容が抽象的で分かりにくい</li><li>・後輩指導に活用</li><li>・手術患者の情報収集に活用</li><li>・術後診断に結びつかず活用していない</li><li>・書き方に統一性がなく読みにくい</li><li>・病棟看護婦間の申し送りに使用</li><li>・術後の看護診断に反映</li></ul>
手術室看護記録用紙の内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・表だけでよい</li><li>・術中の記録がなかったら困る</li><li>・手術の細かい内容や留置物 (ルート、ドレーン) のサイズは表をみればわかるので、経過記録はいらない</li><li>・経過記録は見えていないのでいらない</li><li>・経過記録は必要</li><li>・今のままで良い</li></ul>
今後の手術室看護記録	<ul style="list-style-type: none"><li>・簡単でわかりやすい記録</li><li>・術後に役立つ情報が欲しい</li><li>・看護診断を取り入れた記録</li></ul>

った。＜手術室看護記録の活用＞では、「抽象的で分かりにくい」「書き方に統一性がなく読みにくい」「後輩指導」「病棟看護婦間の申し送りに使用」「手術及び患者の情報収集」「術後の看護診断に反映」「看護診断に結びつかず活用されていない」など経過記録に対する意見であった。＜手術室看護記録用紙の内容＞では、「表だけで良い」「経過記録は必要」「今のままでよい」「手術の細かい内容や留置物のサイズは表を見ればわかるのでいらない」「経過記録はいらない」などの意見であった。＜今後の手術室看護記録＞では、「簡単で分かりやすい記録がほしい」「術後に役立つ患者の情報がほしい」「看護診断を取り入れた記録ならば術後の看護に反映できる」など今後の手術室看護記録への要望についての意見であった。

## 2. 手術室看護婦 (表2)

＜手術室看護記録に対する捉え方＞では、「看護記録とはアセスメント・計画・実施・評価を行い記録するものである」「看護記録だとは言えないので変えていく必要がある」「看護過程を取り入れたものでなければ看護記録とは言えない」「現在の手術室看護記録は経過記録でしかない」「現在の記録を看護記録と教えられたので書いている」「看護記録としての意識がない」「看護しているという意識が薄い」などの意見であった。＜手術室看護記録用紙の記載方法＞では、「文字の羅列で読みにくい」「術中経過と投薬などが混ざって書きにくく、読みにくい」「看護記録用紙の書き方に統一性がない」などの記載方法の問題点についての意見であった。＜手術室看護記録用紙の内容＞では、「今のままでよい」

表2 手術室看護婦の意識

手術室看護記録に対する捉え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護記録とはアセスメント、計画立案、実施、評価を行い記録するもの</li> <li>・看護記録だとは言えないので変えていく必要がある</li> <li>・看護過程を取り入れたものでなければ看護記録とは言えない</li> <li>・現在の手術室看護記録は経時記録でしかない</li> <li>・現在の記録を看護記録だと教えられたので書いている</li> <li>・看護記録としての意識がない</li> <li>・看護しているという意識がうすい</li> </ul>
手術室看護記録の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のままで良い</li> <li>・経過記録は必要な項目だけでよい</li> <li>・術前訪問をはじめたが、記録の内容は変わっていない</li> <li>・看護診断を取り入れた記録が一部しか行っていない</li> <li>・各個人が記載する患者の状態や手術の内容が違う</li> <li>・病棟看護婦が必要とする情報が何か分からない</li> <li>・看護診断を取り入れるなら経過記録はいらない</li> <li>・病棟で活用されていないと思うので必要ない</li> </ul>
手術室看護記録用紙の記載方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の羅列で読みにくい</li> <li>・術中経過と投薬がまざっているため読みにくい、書きにくい</li> <li>・看護記録用紙の書き方に統一性がない</li> </ul>
継続看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに計画をたて看護を行っても、記録として残っていないので継続看護に活かさない</li> <li>・看護をアピールした記録を行う</li> <li>・(看護の) 振り返りができる記録にする</li> <li>・看護診断を取り入れ継続看護につなげる</li> <li>・看護行為を記録することで術後の継続看護につなげる</li> </ul>
今後の手術室看護記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術室内で看護基準をベースに入力できるシステムを導入したい</li> </ul>

「経過記録は必要な項目だけでよい」「病棟で活用されていないと思うので必要ない」など手術室看護記録の必要性についての意見が得られた。また、「術前訪問を始めても記録の内容は変わらない」「看護診断を取り入れた記録が一部しか行っていない」「必要な情報が何か分からない」などの現状についての意見であった。＜継続看護＞では「自分なりに計画し看護を行っても記録として残っていないため継続看護に活かさない」「振り返りができる記録にする」「看護行為を記録することで術後の継続看護につなげる」など継続看護にむけての意見であった。＜今後の手術室看護記録＞では、「コンピューターシステムの導入」など今後の手術室看護記録の展望についての意見であった。

## IV. 考察

手術室看護記録に対して、病棟看護婦からは少数であるが「今のままで良い」「術中の記録がなかったら困る」などの意見があった。しかし、多くは「経過記録は見えないのでいらない」「申し送りには使用するが活用されていない」という意見であり、手術室看護記録が病棟で活用されていない現状が明らかとなった。「手術室看護記録に関して考えた事がない」「看護診断を取り入れた記録は想像できない」などの意見から、手術室看護記録に対し関心がないように感じた。これは結果で述べたように、記録の記載方法に統一性がなく見にくい事、術後に反映できる看護内容が少ない事が要因と考える。したがって、病棟でも活用できる記録への改善は急務であり、手術室看護記録の内容・記載方法について見直しの必要性を認識した。

手術室看護婦からは、「手術室看護婦として患者に看護しているという意識がない」「自分達のしている事は看護ではなく介助ではないか」「看護をしているという意識が薄い」などの意見があった。これは手術室看護が手術介助中心であり、患者と接する時間が少なく看護しているという意識が不十分な為だと考える。「今の記録

は経過記録でしかない」「現在の記録を看護記録だと教えられたので書いている」などの意見があり、患者の一般状態、手術の内容をどの程度記録すれば良いのかがわからないまま、記録をしている者がいる事も明らかとなった。これは現在の記録を看護記録として意識づけできていない事に問題があると感じた。一方、「看護記録とはアセスメント・計画・実施・評価を行いそれを記録するものである」という意見もあり、これは看護記録とは何かを理解していても、自分達が行った看護を記録に残していないという現状が、看護記録として捉えにくくしていると考えられる。庄司らは、「手術室看護は、技術を機械的に使うだけであり、術者の指示を遂行するにすぎないものだと考えられやすい。しかし、看護過程を用いることによって患者に焦点を当てることができる」と同時に、正しい見通しのもとに技術や知識を患者に提供したり、手順をまちがわずに実施することができるのである<sup>2)</sup>と言っている。また、深澤らは「手術室は常に医療の最先端の場で高度な知識と技術を用いて心身の危機的状況下の患者を正確にアセスメントし、高度な倫理的判断を必要とする手術場面での看護は、専門性の高い分野である<sup>3)</sup>」と述べている。手術室では観察力・予測力・判断力が直接患者に影響を及ぼす事を考え、患者の安全を図り手術が円滑に行えるよう援助する事が看護の基本である。手術室においても、看護過程を実践し記録を行う事が意識づけされる必要がある。

さらに現在では、インフォームドコンセントの理念に基づき、患者の権利の保障として情報開示は医療を推進する上で重要となっており、リスクマネジメントの観点からも、患者だけでなく看護者自らの安全を確保するうえで記録物は法的証拠となり、診療録や看護記録はその対象となる。看護記録とは患者の為に行われた看護過程の実施を証明するものである事をふまえて、看護者の意識を高めていく必要がある。そして、医療の高度化・複雑化に伴い情報が増大化・多様化されている今、病棟での看護支援システムのように情報を共有し、効率化につなげていかなければならない。今回の調査で、看護婦全体の手術室看護記録に対する意識づけが不十分であり、記録する側の手術室看護そのものに対する捉え方や、看護記録の捉え方に個人差があるという問題が明確となった。今後は手術室看護記録に対する各個人の意識づけが十分に行えるよう、内容や記載方法の統一を図り、手術室看護記録の改善を課題として取り組んでいきたい。そして、将来的には手術室看護基準を用いた看護支援システムの導入に向けて取り組みたいと考える。

## V. おわりに

今回の研究では、研究者の面接技術が未熟なため十分な情報が得られなかった。しかし手術室看護記録に対する意識を知ることができ、私達自身手術室看護記録を、ひいては手術室看護のあり方を見つめ直す良い機会となった。今後は継続看護につなげるため手術室看護記録の充実を図り、看護の質の向上にむけ努めていきたい。

## 引用・参考文献

- 1) 山田明美：看護診断とPOS, オペナリング, 95 秋季増刊, 16 - 27, 1995.
- 2) 庄司佑：手術室看護の基本概念, 手術看護学 1, 医学書院, 1 - 14, 1985.
- 3) 深澤佳代子：手術室看護の専門性について, オペナリング, 11 (9), 58 - 63, 1996.
- 4) 仲野悦子：ルーチンワークをとり入れた記録の検討, オペナリング, 14 (7), 88 - 94, 1999.
- 5) 板橋イク子：読み手は記録に何を求めるか, 看護技術, 42 (8), 10 - 14, 1996.
- 6) 段原さおり：周手術期看護の質の向上に向けて - 術中記録にPOSを導入しての一考察 -, オペナリング, 13 (3), 78 - 85, 1998.
- 7) 浅沼良子：周手術期看護がめざすべき目標をふまえた看護記録のあり方, オペナリング, 14 (12), p1, 1999.
- 8) 折津礼子：病棟からみた術中看護記録, オペナリング, 3 (4), 35 - 41, 1988.
- 9) 布施美子：看護過程のわかる記録を目指して - 手術部看護記録の分析より -, オペナリング, 95 秋季増刊, 154 - 160, 1995.
- 10) 徳岡典子：病棟看護婦とともに取り組んだ看護記録改善, オペナリング, 95 秋季増刊, 161 - 171, 1995.
- 11) 山本恵子：術中の看護記録と評価 臨床看護, 20 (13), 1875 - 1879, 1994.